

シンポジウム開会のあいさつ

著者	泉 貞吉
雑誌名	奄美ニューズレター
巻	16
ページ	2-2
別言語のタイトル	Opening Speech
URL	http://hdl.handle.net/10232/17720

■特集：公開シンポジウム－新しい奄美世界の創出－(1)

シンポジウム開会のあいさつ

泉 貞吉 (和泊町長)

会場の皆さんを代表して一言ご挨拶申し上げますと思います。

本日、鹿児島大学の主催により「新しい奄美世界の創出」と題しての学術研究シンポジウムが本町において開催されますことを、地元として衷心より感謝申し上げますと同時に、心からのご歓迎を申し上げますと思います。

私たちの奄美群島が日本復帰後半世紀を過ぎ、新たな奄美の復興支援を受けて動き出したこの時期に、島嶼研究に取り組んでおられる方々が一同に会し、今後の奄美のあり方を模索し奄美の将来について討論していただくことは、まことに意義深いことであります。今後の町づくり・村づくりに大きな示唆をいただけるものと期待するところであり、今回のシンポジウムを企画された鹿児島大学の関係者に改めて深く感謝を申し上げます。

奄美の歴史は私がここで申し上げるまでもなく、激動と変革を繰り返して参りました。その中で復帰以来、復興・振興・振興開発事業によってご承知のように交通基盤・産業基盤・生活基盤などの社会資本の整備を行い、大きな成果を挙げて参りました。本町もこれらの事業により、地理的・社会的条件が大きく緩和されてきております。特に基幹産業の農業は、花き類を中心にめざましい発展を遂げて参りました。関連施設が整備されることにより農業者の勤労意欲も高まり、全国の産地や市場の情報を分析し、地域の特性を活かした経営を行うことで、本土の産地と対等に競えるまで成長しているものと自負しているところでもあります。

しかしながら、本土から遠隔の離島という地理的条件や台風常襲地帯である厳しい自然

状況下にあっては、自立的発展の基礎条件は必ずしも確立されているとは言い難い状況にあります。今後の振興策を考えると、これらの課題解決はもちろんでありますが、本群島・本町のもつ亜熱帯や海洋性の豊かな自然や伝統文化、さらには長寿や子育てしやすい環境など、他地域にはない魅力と特性を活かしていくような地域振興を図っていくことが必要であると考えているところであります。シンポジウムに参加されます先生方は、奄美のこともそして本町のことも大変詳しい方々であります。島嶼開発についての研究をもとに、これからの奄美の振興に大きな示唆を与えて頂きますようご期待申し上げます。開催地を代表しての挨拶とします。

なお、ご来場の皆様方はもう既にご理解・ご承知だと思いますが、本日の基調講演をしていただきます皆村武一先生、そして研究討論をされます高橋孝代先生は本町のご出身でいらっしゃいます。本町出身の先生方をお迎えできたことを大変うれしく、心から歓迎しているところであります。どうぞ、郷里の皆さんは全島民を代表しての立場から、ゆっくり最後まで討論会に参加していただきますように、重ねてお願い申し上げます。

